

平成30年度第2回 京都府寄附控除対象特定非営利活動審査委員会議事録
平成30年度第2回 京都市控除対象特定非営利活動法人審査委員会議事録

1 日時 平成30年10月30日（火） 10:00～11:40

2 場所 京都市市民活動総合センター ミーティングルーム
（ひと・まち交流館 京都2階）

3 出席者

(1) 委員（五十音順）

清水委員，鈴木委員，新川委員【委員長】，向井委員

(2) 事務局等

（京都府）勝山府民力推進課長，万所副課長，担当職員

（京都市）猪田地域自治推進室長，山口市民活動支援課長，
沼崎担当係長，担当職員

4 議題

(1) 条例指定NPO法人の外部評価結果について

(2) 京都府及び京都市の条例指定の状況について 等

5 公開・非公開の別 公開

6 議事の概要

(1) 条例指定NPO法人の外部評価結果について

3月決算法人である，あやべ福祉フロンティア，花山星空ネットワーク，環境市民，加茂女，フォーラムひこばえ，FaSoLabo 京都及び京都DARCの外部評価結果について，資料「条例指定NPO法人から提出された外部評価結果」に基づき事務局から説明した。

【主な質疑応答】

(委 員) 外部評価委員は大学教員等の学識経験者が多く，法人の事業運営やテーマに対する専門性等にかなりバラつきがあると思うが，その選定は基本的に法人に一任されているということでしょうか。

もう少し法人の目的や事業に沿った公益性，組織運営との関係性を御指摘いただけると外部評価の価値がより一層上がるのではないかと思います。

(委 員) 環境市民は，大学教員のほか弁護士による複数の視点からの評価もされている。また，大学教員でも，組織・事業・財務等の観点から評価される方がいる一方で，法人の事業に重きを置いて評価されている方もおり，外部評価をどう活かすかは，各法人によるところであると思う。

(委員) 外部評価委員の人選については、人数も含めて法人に一任されているということでよいか。外部評価の観点に加えて、審査委員会で補足できるということでよいか。

(事務局) そうである。審査委員会でいただいた率直な御意見を団体にフィードバックしていきたい。

(委員) あやべ福祉フロンティアについて、もう少し財務基盤やガバナンスの強化がどう法人内で反映されているのかという点を所見でフィードバックされると審査委員会として判断しやすいと思う。

(委員) あやべ福祉フロンティアの財産目録に記載のある個人の貸付金について、前年からの増減はどうか。また、この個人は法人の役員か。

(事務局) この個人は法人の青少年ひきこもり部門の統括をしていた元役員であり、いったん法人が支払ったものの最終的に統括責任者として当該役員が責任を負い弁済することとなったものであり、法人へ返還されるものと聞いている。

(委員) 花山星空ネットワークのアメリカ日食観測ツアーの収益費用の経常増減額が、約230万円の増となっているが、NPO法人として問題はないのか。

(事務局) 日食観測ツアー自体は平成29年度に実施されているが、当事業は準備も含めて平成27年度から開始されている。平成27、28年度においても広報等の準備費用を法人経費で支出しており、平成29年度の単年度で見ると200万円以上の収益となっているが、事業全体で見ると数十万円程度の収益があるのみと聞いている。

(委員) 加茂女の財産目録で会員からの借入金1,100万円があるが、増減はどうなっているのか。

(事務局) 確認し、後日報告する。

(委員) 法人の事業活動に関する所見として、花山星空ネットワークは定款と照らし合わせた評価がされており、京都DARCも社会から要請された事業に追われ当初の志が見失われていないか改めて見直す必要があるとの指摘がなされ、これも定款と照らし合わせた評価と考えられるが、他の外部評価は定款に定める目的からの視点が弱いように感じる。

外部評価は法人が外部評価者に個別に依頼するという事だが、評価すべきポイントをどのように伝えているか。マニュアルを作り評価のポイントを示しているのか、それとも法人と外部評価者が個々に決定するのか。

(事務局) 事業活動や組織運営等の項目は、評価票にある基準で評価していただくよう説明しており、その他の点は各評価者の視点で評価いただいているところ。

(事務局) 評価票の項目については、条例指定を受けて寄附金を受け入れられる組織体制であるかを確認するにあたっての、必要最小限度の組織運営のガバナンスと事業活動を評価していただくこととしている。所見でそれ以外の観点を含めて総合的に評価していただいている旨、御理解いただければと思う。

(委員) 評価票の項目を作る際、なるべく団体の負担にならないように作成した経緯がある。

一方で、項目中の「法人全体の労力に占める事業に割く労力の割合」を記入する部分について、ほとんどの法人は事業ベースで書かれているが、例えばフォーラムひこばえのように、放課後デイサービス事業や就労継続B型事業など様々な制度事業を行っている場合、それぞれの事業の報告書に加え、法人としての報告書、条例指定・認定法人としての報告書等を作成されているが、事務的・総務的な部分にかける労力についても事業基盤整備やガバナンス強化に関連してくるので、そのあたりもくみ取れるようになるとなお良いと思う。

(委員) もし評価項目の見直しを行うのであれば、現行の様式では優先順位の高い事業を3件記入するとなっているが、4つ目の項目として総務的な業務にかける時間の割合などを入れてもよいかもしれない。

(委員) あやべ福祉フロンティアは外部評価者も指摘されているが、情報の公開、タイムリーな情報発信には改善の余地があり、また指摘を受けて機敏に対応するための組織体制が少し弱いという印象を受ける。

(事務局) あやべ福祉フロンティアについては、法人自身の改善意思は強く、府としても専門家(プロボノ)の派遣等の支援策も考えている。また、過去の体制上の問題があったことから、事業報告書等の窓口となる中丹広域振興局とともに、随時担当とやり取りして情報の把握に努め、本日の御意見もお伝えする所存である。

(委員) あやべ福祉フロンティアの添付資料の15周年記念誌は力を入れて作られているようだが、それ以降広報誌等は作成されていないのか。

(事務局) 現在は体制的に難しいと聞いている。当該法人の事業は地元からのニーズが非常に高く、事業の継続が必要である一方、認定、条例指定法人としての資質もしっかり兼ね備える必要があるので、必要に応じて助言していく必要があると考えている。

(委員) 花山星空ネットワークは、本当に頑張っているいろんな活動をやっておられる。イベントによっては参加者数が少ないものもあり、せっかく力をいれてやっておられるので、活動の種類に応じて集客を意識した工夫をしていただければと思う。

- (委員) 環境市民は、中心となっている方々が相当頑張っておられ、中心メンバーの後継者をどう育成するかが課題である。また、外部評価でもあるが、安定した活動のための多様な資金調達の方法を検討していただきたい。
- (委員) 加茂女は、事業の採算性向上と寄附金集めについて外部評価者も指摘されているが、目先の商品開発だけでなく、組織運営や事業を俯瞰し優先順位を付け、力や時間の使い方の配分を考えることで、賛同者や寄附者を集める工夫ができそう。
- (委員) 加茂女の活動は、地域活動や地縁組織との連携など可能性のある活動形態であると思う。事業基盤が整備され、更に地域との連携が進めば、資金計画の策定に労力を割ける余裕も生まれるのではないと思う。
- (事務局) 加茂女はもともと地域のボランティア活動からスタートした団体で、課題解決型の組織である。放置竹林の問題が注目を浴び、そちらの方へ活動が偏重しがちではあるが、活動地域が人口減少や高齢化が進んでいるということもあり、地域コミュニティとの連携を引っ張っていける可能性のある団体であると思う。
- (委員) 京都DARCについて、場所の確保がなかなか難しいとお聞きしているが、その後の状況はどうか。また、条例指定されたことによる変化について聞いているか。
- (事務局) 場所自体はすでに購入し移転に向けた準備をされているが、地元住民との調整が難航し反対運動が起きており、うまく進んでいない状況と聞いている。また、条例指定・認定を受けた後の変化について、まだ認定により寄附が増えた等の実感をはっきりとは聞いていないが、今後移転問題が解決後、この点についても支援していきたいと考えている。
- (委員) 新しい活動については社会的な認知をきちんと得ていかなければならず、丁寧に進める必要がある。薬物依存していない人が外から見ただけでなく、依存している人やしていた人たち自身で助け合うという運営の仕方も大事である。
- (委員) フォーラムひこばえは、放課後デイサービスが拡大し、今後就労継続支援も増えていくと思われるが、一方で従来から実施していたひこばえ事業との比率はどうなっていくのか。
- (事務局) 当該法人は右京区の地域活動団体の中で中心的な存在となっているが、地域のニーズから考えると今後も福祉的事業の比率は高まっていくものと思われる。
- (委員) 介護などで手いっぱい事業所もあり、子育て、児童、障害の問題など、団体同士がそれぞれの専門性を補い合い、あるいは連携していかなければならない部分が増えるかもしれない。
- フォーラムひこばえほどの規模になると事務局機能が大変であり、1.

5名体制でどこまで対応できるのか心配なところはある。そのあたりについて、経営や事務処理の効率化という観点で、より機動的で効果的な経営体制を是非考えていただきたい。

(委員) FaSoLabo 京都は、外部評価で当該分野におけるパイオニア的な存在として中長期計画の検討を法人内部で重ねるとともに、開かれた場で議論していくことが必要という指摘だと思うが、審査委員会としてもその方向で取り組んでいただきたい。

(委員) FaSoLabo 京都については、外部評価だけでなくパナソニックの基盤強化の支援も受けておられるので、経営の視点が整備されてきたと感じている。これから中長期計画を作ってそれをどう実行へ移していくかという点が大変だとは思いますが重要である。

(2) 京都府及び京都市の条例指定の状況について

京都府又は京都市が条例指定した法人について、資料「京都府及び京都市の条例指定の状況について」に基づき事務局から説明した。

【主な質疑応答】

(委員) クラウドファンディングが流行っているのもう少し寄附があってもいいのかなと思う。

(委員) クラウドファンディングもその他の寄附の仕組みも一般的・抽象的な事業名では、寄附も関心も集まらない。関心をひくテーマを設定したり、寄附の結果を多くの人にアピールできるような寄附の仕組みを作らないとクラウドファンディングを用いてもうまくはいかない。

このあたりは、新しい寄附の文化を条例指定・認定の仕組みの中で作っていくということが大事かもしれない。